（別紙様式４―１）　　（県立高等学校・中学校用）

熊本県立牛深高等学校　平成２９年度学校評価表

１ 学校教育目標
◎教育方針（校訓）：「敬愛」「勤勉」「創造」 ◎育てたい生徒像 「志高く、夢に向かっていきいきと生きる生徒 ～他者への尊敬を忘れず、自己を大切にし、日々の努力を怠らず、健全な心身を養う。～」

２ 本年度の重点目標
（１） 人権尊重の精神を涵養する教育活動の推進 （２） 豊かな人間性と品格を備えた生徒の育成 （３） 生徒の未来を輝かせるキャリア教育の実践と学力の充実 （４） 開かれた学校づくり・魅力あふれる学校づくり （５） 特色ある教育活動の実践と工夫 （６） 学校の教育力を高める手立ての開発

３ 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校改革のさらなる推進	教職員としての指導力及び業務遂行力の向上	教職員の授業力、生徒指導力、進路指導力及び担当業務を遂行するうえで必要な技能の向上	・運営委員会の活性化 ・ＯＪＴの充実	A	学校評価アンケートの職員の指導力関連項目の全てで、生徒評価（４件法の上位２件※以下省略）が前年度を上回った（学習指導［８９％、前年度+７％］、生活指導［９６％、前年度+４％］、進路指導［９１％、前年度+３％］）。また、職員アンケートにおいても同様の結果であり、運営委員を中心とした各分掌部の取組が、職員の指導力、業務遂行力の向上に結びついてた結果と言える。
	危機管理の徹底	危機管理能力の向上	事故やいじめの未然防止及び自然災害への的確な対応	・日常に潜む危機の把握と情報の共有 ・日常のチェック体制の向上	B	学校評価アンケートの安全、健康に関連する項目の全てで、生徒評価が前年と同じ又は上回った（施設・設備の安全［８８％、前年度+２％］、感染症対策［７９％、前年度同値］、心のケア［９１％、前年度+１％］）。また、台風、大雪等の自然災害への対応においても、防災主任を中心に組織的な対応を図ることができている。 課題としては、通学支援タクシーを含む登下校中の事故対応について、学校、家庭、業者で情報を共有する必要がある。
	学校の魅力創造と発信	・新設学校としての魅力の創造 ・魅力を伝えるための効	・地域の中学校生徒保護者の本校に対する理解の深化	・高校活性化対策会議の充実（外部評価の導	A	本校への入学を希望する中学生の割合が前年比で約３割増加している。これは、中学校生徒、保護者、職員の本校に対する理解を

		果的な情報の発信	・本校への進学希望者の増加。	入） ・中学校、地域に対する情報発信の強化		促進する取組（総合学科発表会の実施、体験入学の充実、地域イベントへの積極参加、学校ＨＰ等での情報発信）の成果と言える。
学力向上	基礎学力の定着	学習習慣の定着	家庭学習時間の充実	・家庭学習時間調査 ・適量適切な課題の検討	C	生徒の平均家庭学習時間は２．２時間／１日（２学期）となっており、１学期と比較して０．３時間減少している。また、学校評価アンケート（生徒）の家庭学習への意欲、習慣化の項目についても、前年度評価を下回っている[２６％、前年度-８％]。 これらの課題については、本年度から考査前の家庭学習時間調査を開始し、調査結果のデータとしての活用を始めており、今後データ分析を進め、学習習慣の定着に向けて対策を講じる予定である。
	教科指導力の向上	わかる授業の実践	授業評価アンケート「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合を92%以上に（昨年度90%）	・教育センター指導主事等の活用 ・公開授業、授業評価、教科会がリンクした授業改善システムの構築	A	授業評価アンケートでは、全調査項目の平均で９５％の生徒が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答しており、当初の目標を達成できている。外部講師の活用や本年度取り組んだ授業改善システムが機能した成果と言える。 一方、学校評価アンケートでは、学校の学力向上への取組状況の評価において、職員と生徒に若干の評価の差[職員９６％、生徒８６％]が見られるので、この点の改善が課題である。
キャリア教育	進路指導力の向上	一人一人の進路目標に対応した指導の実践	進路希望の１００％達成と進路指導のノウハウの継承	・進学指導及び就職指導における課題の抽出 ・適切な進路情報の提供 ・各種データの分析能力の向上	B	目標とする進路希望の１００％達成を実現できた。また、一人一人の進路目標に対応した指導については、学校評価アンケート（生徒・保護者）の「進路面談の充実」「進路情報の提供」の他、関連する項目全てで前年度を上回っており、それぞれの実践が充実できていることを示している。 今後は、課外や模試等の在り方について検討を加え、より効果的に生徒の実力を伸ばせるよう計画を立てる必要がある。
	社会に生きる一員と	自己理解の深化及び適切な勤労観・職業	・基本的生活習慣の定着 ・表現する、	・インターンシップ事前・事	A	学校評価アンケートでは、生徒、保護者ともに約８割（生徒８２％、保護者

	しての自覚を高める	観の育成	伝える力の育成 ・働くことの意義についての理解	後指導の徹底 ・進路講演会の実施 ・ＬＨＲの充実化を図る		７７％）が、卒業後の将来像についてしっかりと考えることができていると評価している。この結果については、総合的な学習の時間等での学習の他に、進路講演会やインターンシップ等の進路行事を通して社会に貢献する意味や自己の適性を考えることで進路意識を高めた成果と言える。
キャリア教育	「地域を担う人材」の育成	総合学科高校として魅力ある特色作りを推進する	総合学科高校に関する職員研修を通し、職員がより一層総合学科高校を理解する	本校の活性化・特色化に向け協議するとともに各部・年次をはじめとする校内組織との連携強化を図る。	B	学校評価アンケート（職員）の項目「キャリア教育の指導状況」「系列・科目選択の指導状況」では、それぞれ９６％［H29新項目］、８４％[前年度８５％]の職員が自身の指導が有効であると感じている。これは、総合学科に関する職員研修を通して、職員の教育課程や科目選択について理解を深めることができた成果と言える。 一方、同じアンケート項目での生徒評価が、職員評価より低い[キャリア教育・・８２％、系列・科目選択・・８３％]結果となっており、引き続き関連する職員の指導力を高める取組が必要である。
		積極的な広報活動を通し、保護者・中学生・地域住民等へ本校に対する理解を深める	本校の取組や魅力を保護者・中学生・地域住民等に伝え、入学生８１人を目指す	学校説明会への積極的な参加や学校紹介等のＰＲ資料作成	A	本校への入学を希望する中学生（地域４中学、３年生）の割合が前年比で約３割増加している。これは、学校説明会、体験入学等の内容、方法に工夫・改善を加える他、関係中学校の協力を得ながら様々な機会に本校の特色ある取組をＰＲできた成果と捉えられる。また、第１回総合学科発表会を行い、生徒の１年～３年間の学習の成果を広く中学生や地域住民等に発信できたことは大きな成果と言える。
生徒指導	牛深高校生としての自覚と誇りを持って行動できる生徒の育成	基本的生活習慣の確立	・服装頭髪等の指導の徹底を行う ・校歌斉唱の機会を増やし、愛校心を育てる ・自立的な生活態度を身に付けさせ、遅刻や欠席を減少	・各種会議等で情報を共有し、迅速に対応する ・全職員での指導を徹底する ・学校と家庭との連携を密に	B	学校評価アンケートの基本的生活習慣の指導に係る項目では、９割（生徒９６％[前年度９２％]、保護者９４％[前年度９０％]）を超える生徒・保護者が本校職員の指導を肯定的に評価している。実際、遅刻・欠席者や頭髪・服装違反者も減少しており、クラス・年次を中心とした日常指導の徹底、職員間の情報共有が

			させる	した指導		この結果につながったと考えられる。今後は、職員個々の指導力を高めつつ、組織としての対応力を一層充実する必要がある。
		主体的な生徒会活動	各種委員会及び部活動の活性化	・生徒主体の活動の継続 ・学校行事等をとおしての一体感の高揚	B	学校評価アンケートの各種委員会活動・部活動に係る項目では、９割（生徒９６％[前年度９３％]、保護者９５％[前年度９０％]）を超える生徒・保護者が本校の活動が活発に行われていると評価している。実際、学校行事を含め、委員会活動、部活動ともに生徒が主体的に活動する場面が多くみられるようになっている。 一方、一部の委員会活動の場が作れていないところもあり改善が求められる。
	交通安全・防犯意識の定着	交通安全・防犯教育の充実と指導の徹底	・交通事故、交通違反ともに“０”を目指す ・二重ロック及び校内ロッカー施錠の徹底	・交通ルールの遵守 ・関係機関と連携した校外の交通指導の徹底 ・定期的な巡回指導	B	年間を通して、原付免許取得生徒の交通違反件数は“０”で、事故に関しても救急搬送等を必要とするような重大事故件数は“０”であった。 今後も引き続きこの状況を維持するためにも、掲示物、標語等を活用した啓発活動を更に推進する必要がある。
人権教育の推進	生徒・職員の人権意識の高揚と理解	人権侵害に対して正しく向き合い、自他を大切にする心の育成	人権が尊重される学習活動、人間関係、環境づくり	・人権ＬＨＲの充実と啓発作品募集への応募 ・職員研修の充実と実践	B	学校評価アンケートの人権意識に係る項目では、９１％（前年度９２％）の生徒が、人権の大切さを学び、それを日常生活に生かしていると回答している。一方、職員のアンケートでは、本校の教育活動における人権的配慮について、１６％（前年度０％）の職員が十分ではないと回答している。 人権ＬＨＲについては、生徒の人権意識の高揚に一定の効果があったと評価できるが、職員研修に関しては、さらなる工夫が必要である。
	自他の“いのち”を大切にする心を育む指導	自尊感情・共生の精神の高揚	自他の“いのち”の尊厳を深く考え、生きていることのありがたさを実感させる	“いのち”に関する社会的課題、自己実現や社会貢献に係る教育の実践	B	学校評価アンケートでは、９３％（前年度９１％）の生徒が、本校に進学してよかったと感じており、学習意欲、規範意識に係る項目と同じく昨年、一昨年から大きく割合を増やしている。この背景には、生徒会活動や部活動の活性化により、生徒が他者と協力して課題を解決する機会が増えたことで、自己有用感や効力感を感じる機会が増えた

						ことによると評価している。 今後は、他者とのつながり方（コミュニケーションスキル等）の向上のために、教科の授業等を含め全ての教育活動で向上に取り組む必要がある。
いじめの防止等	いじめの未然防止	自分の存在と他人の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重する態度の育成	・他人の気持ちを共感的に理解できる豊かな情操とコミュニケーション能力の育成 ・自己有用感や充実感が感じられる学校生活づくり	・生徒に関する情報の収集及び共有 ・日頃の見守りの徹底 ・保護者との連携	A	学校評価アンケートでは、９６％（前年度９５％）の生徒が校則や決まり事を守っていると回答している。また、職員の生活習慣やルール、マナーの指導状況について９６％（前年度９２％）の生徒がその指導を肯定的に評価している。心のアンケート（いじめ防止アンケート）においても、全員の生徒が学校生活に不安を感じることなく生活する様子が伺え、生徒に互いを尊重しながら生活する態度が育っていると評価できる。
	いじめの早期発見	生徒に早い段階から的確に関わり、いじめを隠したり軽視することなく積極的にいじめを認知	教職員の「気づき」力の向上	・本校独自のアンケート調査の実施（年３回） ・相談窓口の周知と相談しやすい環境づくり ・定期的な個別面談や教育相談会議の実施と職員間の情報の共有及び連携	A	学校評価アンケートでは、悩みや困りごとの相談状況について、９１％（前年度９０％）の生徒が本校職員が誠実に対応していると回答している。保護者についても９２％（前年度９０％）が同様の回答をしており、いじめの早期発見のための職員と生徒・保護者の信頼関係、相談環境は着実に整いつつある。また、学校カウンセラーとの連携、心のアンケート等を活用した職員間の情報共有、連携もとれており、いじめの有無に関わらず生徒の細かな変化も見逃さない体制も整っている。
	いじめへの対処	いじめを把握した場合の対処の在り方について理解を深め適切に対処	・組織的な早期の対応 ・被害生徒を守り、教育的配慮の下、毅然とした態度で加害生徒を指導する ・保護者の協力を得て関係機関等と連携し、対応に当たる	・直ちに「いじめ防止対策委員会」に情報を伝え、委員会が中心となり対応する ・被害生徒や通報者の安全確保、関係生徒に対する事実確認 ・被害・加	A	いじめと認知した事案については、担任を中心に学年職員、生徒指導主事の他、養護教諭、学校カウンセラーを含めた複数の職員で組織的に対応できている。また、学校評価アンケートでは、８７％（前年度８２％）の保護者が学校、担任、保護者の連携が上手くいっていると回答しており、関係する事態が発生したときに保護者との協力体制を円滑に確保する状況が作られている。

				害生徒の保護者への連絡、教育委員会や警察署等の関係機関との連携		
環境教育の推進	環境に対する意識の高揚	校内外の清掃・整頓とエコ活動	学校版環境ＩＳＯに取り組む	・生活委員会の活性化 ・ゴミの分別回収の推進	B	学校評価アンケートでは、環境美化に関して、８７％（前年度８４％）の生徒がしっかりと取り組んでいると回答している。また、同項目の職員の回答も１００％（前年度８５％）となっており、環境に対する意識の高揚が確認できる。一方、実際の活動では生活委員がゴミ分別を行ったが、分別が追いつかず、うまく分別回収ができない状況もあり、今後は、表示を明確にし、ゴミをスムーズに分別して出せるよう改善する必要がある。
	ボランティア活動に対する意識の高揚	校内外の諸活動への積極的な参加	日常生活における奉仕の精神の発揮	・ボランティア部の清掃活動を学期に２回以上実施 ・エコキャップ運動の活性化	B	本年度のボランティア活動への参加者はのべ３０３人（前年度２３５人）で前年度を大きく上回っている。増加の背景としては、生徒のボランティアの機会を増やすために校内ボランティア清掃の回数を前年度から２倍に増やしたこと、地域からのボランティア要請が増えたことがある。各ボランティアにおける生徒の活動状況は良好で、活動の意味や意義についての理解も進んでいる。今後は、これらの経験を基に自発的に地域の活動に参加できるよう働きかけていく必要がある。
保健教育・保健管理の推進	生活習慣の確立	自己管理能力の育成	・健康観察の継続 ・職員間の情報交換を密に行い、生徒に全職員で関わる	・生活習慣アンケートの分析と活用 ・保健委員によるクラスの健康管理	B	生活習慣アンケートの結果では、朝食の摂取、睡眠時間、スマホ・携帯の使用時間等において、概ね自己管理できている。しかし、２回（１学期、２学期）の調査の比較では、朝食の摂取状況、睡眠状況、携帯・スマホの使用状況の全てで若干マイナスの方向に動いている。今後は、定着しつつある生活習慣アンケートの活用や生徒の健康管理における保健委員の活用等をさらに進める必要がある。

	教育相談	教育相談活動の充実	生徒支援体制の確立と強化	・ＳＣの活用と連携 ・継続した支援活動の確立と情報及び支援方法の共有	B	学校評価アンケートでは、悩みや困りごとの相談状況について、９１％（前年度９０％）の生徒が本校職員が誠実に対応していると回答している。職員も９６％（前年度１００％）が同様の回答をしている。生徒の評価が高い理由として、支援の必要な生徒へのスクールカウンセラーと連携した相談活動の実施があげられる。
学校安全・防災教育の推進	学校安全の取組	危機管理能力の育成	避難訓練、救急救命法等の研修の活用	・災害時に生かせる訓練内容の計画 ・行事毎の危機管理マニュアル確認徹底	A	学校安全の取組にさまざまな工夫を加えることで、生徒の防災、危機管理に係る意識を高めることができた。取組上の工夫としては、小中学校と合同の避難訓練の実施、生徒・保護者がともに学ぶ救急救命講習の他、大雨、台風への備えを家庭に促す啓発リーフレットの配布等を実施した。 本年は、大雨、台風、大雪等の荒天による休校、授業打切り等の措置を行ったが、生徒・職員の冷静な行動と対応により事故やけがを防止することができた。
地域連携	防災型コミュニティスクールの推進	地域住民や関係機関との連携	・危機管理（防災）マニュアルの充実 ・防災意識の高揚	・地域、関係機関の人材活用 ・地域、関係機関と連携した防災行事（避難訓練等）の実施	A	防災型コミュニティスクールを実施（全３回）し、各関係機関の防災担当による話し合いを行い、各機関が想定する被害や発災時の対応の在り方について情報を共有できた。この情報を基に、発災時の本校の役割を整理し、他機関との連携を踏まえた形で危機管理マニュアルを見直した。防災マニュアル見直しと並行して近隣の小中学校との合同避難訓練を計画、実施するなかで防災を軸とした学校間の連携を深めることができた。

図書館教育の充実	読書センターとしての役割	・読書習慣の定着 ・将来にわたる読書習慣の涵養 ・地域貢献	・貸出冊数生徒一人あたり２０冊 ・朝読書の徹底と充実・図書館利用の活性化 ・地域への情報発信	・教室巡回を行い、全校で朝読書に取り組む環境を作る ・世の中の話題や生徒のリクエストに応じた図書の購入 ・図書館内外の掲示や広報による利用促進	C	学校評価アンケートの関係項目では、朝読書を通じて読書の習慣化ができていると回答した生徒が昨年度の７１％から６６％に減少している。また、生徒一人あたりの貸し出し冊数も１１．６冊と目標を達成することができていない。読書の習慣化については学年ごとに回答状況が異なっており、朝読書の徹底が不十分であったためである。 地域への情報発信に関しては、天草市立図書館との連携により、牛深地区小中高図書委員会おすすめの本ＰＯＰ巡回展に参加する等で地域の小中学校に本校図書館をアピールするとともに、活動を通じて図書委員会活動の活性化につながった。
	情報収集能力の育成	・情報収集能力の育成	・状況に合わせた適切な資料（図書、新聞紙、インターネット等）や情報を取捨選択、活用できる能力の育成 ・授業における図書館の利用	・教科や各部と綿密な連携を図り、必要とする資料を事前に準備するとともに、生徒の調べ学習を援助	B	学校評価アンケートの関係項目では、図書館を活用して情報を収集できると回答した生徒が８０％で前年の８２％を若干下回っている。ただし、３年次生の回答は９２％と高く、卒業課題研究（総学）や各教科の授業での積極的な利用の成果と評価できる。今後は、１・２年次の授業でも一層活用が進むよう、教科や各分掌部に学習支援のための図書館コンテンツを発信する必要がある。

４ 学校関係者評価

自己評価については妥当な評価がなされており、自己評価を基にした「成果と課題」も適切に整理されている。

授業や行事における生徒の様子からは、高校生としての成長を感じる。その背景の一つとして、中学校や地域と連携した教育活動が評価できるが、今後ますます連携を深めることに期待したい。次年度は、地域の中での存在感をさらに高める取組に期待しており、保護者、地域の代表として参加している我々関係者も積極的に応援していきたい。

５ 総合評価

（１）人権尊重の精神を涵養する教育活動の推進

大項目「人権教育の推進」及び「いじめの防止等」の評価を総合して、人権に係る各種教育活動を適切に展開し、生徒の成長を促すことができたと評価する。

（２）豊かな人間性と品格を備えた生徒の育成

大項目「生徒指導」及び小項目「ボランティア活動に対する意識の高揚」の評価を総合して、人間性の育成には一定の評価を与えることができるが、品格の要素である知的素養の育成については、大項目「図書館教育の充実」及び小項目「基礎学力の定着」において改善が求められる。

（３）生徒の未来を輝かせるキャリア教育の実践と学力の充実

大項目「キャリア教育」の評価を総合して、生徒のキャリア意識の育成の点で実践上大きな成果があったと評価する。しかし、学力の充実に関して、小項目「基礎学力の定着」の学習習慣の定着に課題が認められる。

（４）開かれた学校づくり・魅力あふれる学校づくり

「学校の魅力創造と発信」「『地域を担う人材』の育成」「ボランティア活動に対する意識の高揚」の三つの小項目及び大項目「地域連携」の評価を総合して、開かれた学

校づくり、魅力あふれる学校づくりの両面で、大きな成果があったと評価する。

（５）特色ある教育活動の実践と工夫

小項目「学校の魅力創造と発信」及び「『地域を担う人材』の育成」の評価を総合して、数々の特色ある教育活動を実践し、広く発信できたと評価する。

（６）学校の教育力を高める手立ての開発

小項目「学校改革のさらなる推進」「教科指導力の向上」「進路指導力の向上」他、職員の教育指導力の向上に係る評価を総合して、それぞれの指導力を高める手立てが適切に機能していると評価する。

６ 次年度への課題・改善方策

学校評価全体に係る課題として、設定した具体的目標達成のための進行管理が不十分であったことがあげられる。これに対する改善方策として、学校評価の総括段階で外部アンケートや各種データを活用して成果と課題を徹底して検証、整理した。加えて、これらの検証と整理を基に、年度内に平成３０年度の学校評価計画表（仮）を全職員参画のもとで作成し、具体的目標と方策の共有化を図る。